

提言書

将来を見据えた魅力あるまちづくり

令和3年10月
牧之原市議会

提　　言　　書

将来を見据えた魅力あるまちづくりについて

牧之原市議会
(総務建設委員会)

提言の背景

市議会総務建設委員会では、令和元年11月より所管事務調査事項を「将来を見据えた魅力あるまちづくり」とし、所管する市の担当部署が担っている取り組みについて横断的に調査を行ってきたが、将来を見据えた魅力あるまちづくりには「産業と人口の維持」が解決策の基盤であることから、基幹産業である「農業」と「移住定住」に的を絞った。

市議会では、農業に関しては平成28年に「耕作放棄地について」、移住定住の促進に関しては平成26年及び28年に「活力あるまちづくり施策の推進について」、をそれぞれ政策提言しているが、令和3年現在における市の現状を踏まえ、また、市内各種団体との意見交換会の場である「市民会議」の結果から浮かび上がってきた課題や市民会議で出されたアイデア・想いなどを盛り込むべく協議を重ねてきた。

その中で「就農支援」と「移住定住の促進」を一体的に捉えることとし、総務建設委員会では、令和の時代に沿った「将来を見据えた魅力あるまちづくり」を以下のとおり提言する。

提言内容

1 就農支援

農業への従事を希望する若者は少なくないと考えられるが、実家が農業を営んでいる場合等を除けば、就農準備や就農後の経営などの面で新たに就農するためのハードルは高い。

また、後継者の不在に悩む農業者は多いが、産業構造の変化や茶価の低迷等の様々な理由により農業者の高齢化が進み、後継者不足は深刻な課題となっている。

農業への従事に意欲のある市内外の若者等に対し、農業雇用や生産ノウハウ、経営ノウハウを習得できるような支援を行うことで、高齢化や後継者不足の解消につながっていくと考えられるため、以下の取り組みを求める。

- (1) 「新規就農者向け地域サポート計画（仮称）」を策定し、新規就農への就農準備から定着支援までの積極的な支援体制を確立すること。
- (2) 就農を目指す移住者に対し、自己資金や年齢等の要件を満たす者を対象とした「農業実習・実践栽培の研修制度」を創設するほか、就農後の経営が軌道に乗ることができるよう必要な支援を行うこと。
- (3) 後継者募集の取り組みを強化するため、令和3年度から新たに創設された農林水産省の「経営継承・発展等支援事業」を活かすなど、行政によるサポートを手厚くすること。

2 農業移住体験の提供及び情報の発信

就農を目指し移住を検討する方に対し、当地を訪れて農業体験する機会の創出や営農実習することができる制度を創設することは必要であると考えられる。また、より多くの方にわが市の情報を届けることが重要であることから、以下の取り組みを求める。

- (1) 農業に関心があり、農業に取り組んでみたい方を対象とする「ワーキングホリデー事業」の導入や「農泊体験ツアー」のプラン提供など、農業体験、農家暮らし体験ができる環境整備を促進すること。
- (2) 農業者の需要を把握し、必要に応じてインターネット上の「農業求人サイト（就農、短期～長期アルバイト）」への登録支援を積極的に行うこと。また、サーフィンがきっかけで牧之原市に興味を持った若者を対象としたリゾートバイトについても、農家への受け入れ先の開拓や情報発信に努めること。
- (3) 限定されたSNSのみに限らず、多種多様なWEBサービスや情報誌などを用いた情報発信をすること。